

修士論文 課題研究（量的研究・質的研究）のチェックリスト

臨床現場において問題解決が必要な課題を取り上げ、その課題に関連する先行研究を踏まえて、課題解決の具体的方策を量的研究や質的研究などによって検討し、社会的貢献をなす、あるいは普及的意義を持つ成果を創出した研究報告

論文の評価基準	評価（※）			
1. テーマ設定の明確性 ・明確な問題意識に基づき、テーマが設定されているか。 ・テーマの探究に適したリサーチクエスチョンが明確に設定されているか。 ・現状における課題や先行研究を十分に検討し、自分の研究を適切に位置づけているか。	4	3	2	1
2. 研究方法の妥当性 ・研究の目的に照らして、妥当な研究方法が用いられているか。 ・研究方法の示し方が十分かつ明確であるか。 ・分析方法は妥当であるか。 ・研究倫理の確保について明確に記述されているか。	4	3	2	1
3. 結果・考察 ・量的研究の結果は、図表を含め適切かつ明確に示されているか。 ・質的研究の結果は、十分に分析され説得力をもって記述されているか。 ・考察は、結果に基づいて議論され、説得力をもって記述されているか。	4	3	2	1
4. 論旨の一貫性 ・研究目的、研究方法、結果、考察までの論旨に一貫性があるか。	4	3	2	1
5. 構成・表現・表記法 ・修士論文作成に関するガイドラインに則って作成されているか。 ・学術論文として体系的に構成されているか。 ・文章は文法的・語法的に正しく、明確かつ適切な表現で書かれているか。 ・誤字、脱字、口語表現の混入はないか。 ・図表は、適切な位置に配置され、適切な番号、タイトル、注釈がついているか ・引用文献は、必要な書誌情報が網羅され、規定どおりに記載されているか。	4	3	2	1
6. 貢献度 ・社会的貢献をなす成果を創出したか。	4	3	2	1

（※）評価 4：当てはまる 3：やや当てはまる 2：あまり当てはまらない 1：当てはまらない

最終試験実施要項

1. 提出された修士論文の内容についての質疑応答
2. 論文作成にあたって行われた具体的研究活動についての質疑応答
3. 研究成果のさらなる発展の可能性についての質疑応答
4. 当該の研究で取りあげた課題と採用した研究方法の理解に関する質疑応答

上記観点から試験を行い、以下の4段階で評価する。

- A：優れた研究が行われ、社会への貢献と今後の発展が期待できる成果が創出されたと認められる。
- B：おおむね良好に研究が行われ、有用な成果が創出されたと認められる。
- C：不十分な点があくつかあるが、着実に研究活動が行われ、一定の成果が認められる。
- D：適切な研究が行われたとは認めがたい。

修士論文審査および最終試験を総合してDの判定がつけば不合格とする。

修士論文 課題研究（事例研究）のチェックリスト

臨床現場において問題解決が必要な課題を取り上げ、その課題に関連する先行研究を踏まえて、課題解決の具体的方策を事例研究や文献研究などによって検討し、社会的貢献をなす、あるいは普及的意義を持つ成果を創出した研究報告

論文の評価基準	評価（※）			
1. テーマ設定の明確性				
・明確な問題意識に基づき、テーマが設定されているか。	4	3	2	1
・テーマの探究に適したリサーチクエスチョンが明確に設定されているか。	4	3	2	1
・現状における課題や先行研究を十分に検討し、自分の研究を適切に位置づけているか。	4	3	2	1
2. 研究方法の妥当性				
・適切な事例が選択されているか。	4	3	2	1
・事例の検討方法が明確に記述されているか。	4	3	2	1
・リサーチクエスチョンとの関連について検討されているか。	4	3	2	1
・研究倫理の確保について明確に記述されているか。	4	3	2	1
3. 結果・考察				
・結果は、事例の経過・介入方法・評価方法が具体的に示されているか。	4	3	2	1
・考察は、結果に基づいて議論され、説得力をもって記述されているか。	4	3	2	1
・考察に課題解決のための具体的な示唆が述べられているか。	4	3	2	1
4. 論旨の一貫性				
・研究目的、研究方法、結果、考察までの論旨に一貫性があるか。	4	3	2	1
5. 構成・表現・表記法				
・修士論文作成に関するガイドラインに則って作成されているか。	4	3	2	1
・学術論文として体系的に構成されているか。	4	3	2	1
・文章は文法的・語法的に正しく、明確かつ適切な表現で書かれているか。	4	3	2	1
・誤字、脱字、口語表現の混入はないか。	4	3	2	1
・図表は、適切な位置に配置され、適切な番号、タイトル、注釈がついているか	4	3	2	1
・引用文献は、必要な書誌情報が網羅され、規定どおりに記載されているか。	4	3	2	1
6. 貢献度				
・社会的貢献をなす成果を創出したか。	4	3	2	1

（※）評価 4：当てはまる 3：やや当てはまる 2：あまり当てはまらない 1：当てはまらない

最終試験実施要項

1. 提出された修士論文の内容についての質疑応答
2. 論文作成にあたって行われた具体的研究活動についての質疑応答
3. 研究成果のさらなる発展の可能性についての質疑応答
4. 当該の研究で取りあげた課題と採用した研究方法の理解に関する質疑応答

上記観点から試験を行い、以下の4段階で評価する。

- A：優れた研究が行われ、社会への貢献と今後の発展が期待できる成果が創出されたと認められる。
- B：おおむね良好に研究が行われ、有用な成果が創出されたと認められる。
- C：不十分な点がいくつかあるが、着実に研究活動が行われ、一定の成果が認められる。
- D：適切な研究が行われたとは認めがたい。

修士論文審査および最終試験を総合してDの判定がつけば不合格とする。

修士論文 課題研究（文献研究）のチェックリスト

臨床現場において問題解決が必要な課題を取り上げ、その課題に関連する先行研究を踏まえて、課題解決の具体的方策を事例研究や文献研究などによって検討し、社会的貢献をなす、あるいは普及的意義を持つ成果を創出した研究報告

論文の評価基準	評価（※）			
1. テーマ設定の明確性 ・明確な問題意識に基づき、テーマが設定されているか。 ・テーマの探究に適したリサーチクエスチョンが明確に設定されているか。 ・現状における課題や先行研究を十分に検討し、自分の研究を適切に位置づけているか。	4	3	2	1
2. 研究方法の妥当性 ・検索対象の包括基準、除外基準が明確に記述されているか。 ・検索手順が明確に記述されているか。 ・内容検討の方法が明確に記述されているか。 ・リサーチクエスチョンとの関連について検討されているか。 ・研究倫理の確保について明確に記述されているか。	4	3	2	1
3. 結果・考察 ・結果は、文献を比較・対比し統合され適切に記述されているか。 ・考察は、結果に基づいて議論され、説得力をもって記述されているか。	4	3	2	1
4. 論旨の一貫性 ・研究目的、研究方法、結果、考察までの論旨に一貫性があるか。	4	3	2	1
5. 構成・表現・表記法 ・修士論文作成に関するガイドラインに則って作成されているか。 ・学術論文として体系的に構成されているか。 ・文章は文法的・語法的に正しく、明確かつ適切な表現で書かれているか。 ・誤字、脱字、口語表現の混入はないか。 ・図表は、適切な位置に配置され、適切な番号、タイトル、注釈がついているか ・引用文献は、必要な書誌情報が網羅され、規定どおりに記載されているか。	4	3	2	1
6. 貢献度 ・社会的貢献をなす成果を創出したか。	4	3	2	1

（※）評価 4：当てはまる 3：やや当てはまる 2：あまり当てはまらない 1：当てはまらない

最終試験実施要項

1. 提出された修士論文の内容についての質疑応答
2. 論文作成にあたって行われた具体的研究活動についての質疑応答
3. 研究成果のさらなる発展の可能性についての質疑応答
4. 当該の研究で取りあげた課題と採用した研究方法の理解に関する質疑応答

上記観点から試験を行い、以下の4段階で評価する。

- A：優れた研究が行われ、社会への貢献と今後の発展が期待できる成果が創出されたと認められる。
- B：おおむね良好に研究が行われ、有用な成果が創出されたと認められる。
- C：不十分な点があくつかあるが、着実に研究活動が行われ、一定の成果が認められる。
- D：適切な研究が行われたとは認めがたい。

修士論文審査および最終試験を総合してDの判定がつけば不合格とする。